

# 青山教会会報

「神のように愛する」

イザヤ書五九章二一節

エフエソの信徒への手紙

四章一節～十六節

牧師 増田将平

キリスト者は教会についてこのように告白してきました。「私は聖なる公同の教会を信じます」。教会が「聖なる」ものであるということは、集う人々が清らかな心の持ち主であるということではありません。誰よりも洗礼を受けてキリスト者となった自分自身がそのような人間ではないことを知っているのです。

教会が「聖なる」根拠について次のように記されています。「神から招かれたのですから、その招きにふさわしく歩み」（四章一節）。ヨハネによる福音書には「あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだ」とい

う主イエスの言葉があります。つまり教会が聖であるというのは集まっている人間の側に根拠があるのではなく、教会に集う一人ひとり招いた聖なる神様に根拠があるのです。

なぜ自分が教会に来るようになったか、その理由を尋ねられたら様々な答えがあると思います。しかし誰もが共通して言えることがあります。それは「私があなたがたを選んだ」と言われる神の召しがあったということです。神の招きにお答えして生きている人々、それが教会です。

「神から招かれたのですからその招きにふさわしく歩み」という言葉は、キリスト者としてふさわしい人間だから招かれたのではなく、ふさわしくない私を神が召してくださいました。そもそも神に選ばれるにふさわしい人間などいないのです。にもかかわらず、自分のような人間が神に召されたことを神に感謝し、神に召された者として生きる場所にキリスト者の「ふさわしさ」があります。その「ふさわしさ」とは言い換えれば教会の一致を保ちつつ歩むということです。

なぜ教会で「一致」が語られるのでしょうか。どのような組織でも一致するこ

とが難しいからでしょうか。

しかし聖書は「一致しなさい」とは言っていない。「一致を作り出せ」とも言いません。「聖霊による一致を保ちなさい」と言うのです。「保て」というのはすでに一致が与えられていることを前提とします。

教会の一致はどこにあるのでしょうか。一致の始まりが洗礼です。洗礼はすべてのキリスト者の原点です。洗礼なしにキリスト者となった人は一人もいません。洗礼を受けるきっかけや時期は異なります。しかし誰でも「父なる神、子なる神、聖霊なる神」の御名によって同じ一つの洗礼を受けているのです。洗礼は「イエス・キリストが私の救い主です」と告白する信仰によって授けられます。その信仰を人は作り出すことができせん。信仰は聖霊によって与えられます。洗礼を受けた人は聖餐に与ります。聖餐もまた一つのパン、一つの葡萄酒から分けられます。教会の一致は神がもたらしてくださったものです。だから自分と異なった意見を持つ人がいても、共に一人の主を見上げて礼拝するとき、神の前で私どもは一つとされているのです。

「一致団結」という言葉が掲げられると、

個人が軽んじられていく傾向があると思います。しかし教会では一つであることと、一人一人がその人らしく生かされる事が一致するのです。「わたしたち一人ひとりに、キリストの賜物のはかりに従って、恵みが与えられています」(七節)。

すべての人が例外なくキリストから賜物を与えられています。その賜物は量においても質においても同じではありません。それぞれにふさわしい恵みが与えられているのです。キリストから与えられた賜物をキリストのために、教会のために生かすことが求められています。キリストは一人ひとりを教会の務めに着かせます。牧師、長老だけに当てはまる話ではありません。教員全員が教会の務めに召されています。

「こうして、聖なる者たちは奉仕の業に適した者とされ、キリストの体を造り上げてゆき」私どもは礼拝に来てみ言葉に聞き続けるうちに、神様によって整えられ、自分の満足のためではなく、キリストの体を造り上げるために仕えることができるようになります。「造り上げる」という言葉は建築用語で「建て上げる」という意味です。私どもの会堂建築の業はこうのようにして教会全体の業として成し遂

げられていくのです。

教会にはいろいろな務めがあります。長老、執事、教会学校の務めがあります。それだけではありません。教会に召された一人ひとりの力が必要です。また、奉仕は手足を動かすことだけではありません。心を動かす奉仕というものがあります。祈りです。この国のために、世界のために、教会のために祈ること。これもまた皆さんの力が必要な奉仕です。

十六節にも「造り上げる」という言葉が出てきます。「キリストにより、体全体は、あらゆる節々が補い合うことによつてしっかりと組み合わされ、結び合わされて、おのおの部分に分に応じて働いて体を成長させ、自ら愛によって造り上げられてゆくのです」。建築に限って言えば、青山教会の建物は約五十年前に建てられすでに完成しています。しかし神の目から見れば青山教会は未完成であり、あのスペインのサグラダ・ファミリアの教会のように今も建設中です。

こういう言い方もできると思います。私たちはまだ成長途上なのです。肉体の成長ということ言えば、私どもにはかつて育ち盛りの頃がありました。しかし成長が止まる時が誰にも来ます。ところ

が、教会に生きる人は、みな成長過程にあるのです。生涯にわたって成長し続けるのです。「キリストの満ちあふれる豊かさになるまで成長するのです」。肉体は老化し不具合が生じるようになります。しかし、信仰においては成長を続けることができます。「キリストの満ちあふれる豊かさになるまで」ですから、何十年教会に通つていても「もう私はキリスト者として成長が止まりました」ということはありえないのです。私どもは神の子どもとして、キリストの体の一部として、まだまだ育ち盛りなのです。

私どもの成長の力は私どもの中にありません。キリストの愛によって私どもは教会に招かれ、キリストの愛によって一つに結ばれて、私どもは生涯に渡って成長し続けます。キリストの愛によってキリストの体である教会が造り上げられていくのです。この後歌う讚美歌一九四番に次のような歌詞があります。

「尽きせぬ愛より 命の泉

豊かに湧き出で 汲めど尽きねば」

キリストの愛が泉のように豊かに湧き出でる教会でありたい。みなさんと共に成長して教会を造り上げてゆきたいと思